



## 2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月9日

上場会社名 株式会社Sun Asterisk 上場取引所 東  
 コード番号 4053 URL <http://sun-asterisk.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 小林 泰平  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 服部 裕輔 TEL 03 (6419) 7655  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月9日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	7,990	39.6	649	△42.5	812	△32.7	622	△39.9
2021年12月期第3四半期	5,723	44.2	1,129	62.8	1,206	67.2	1,034	59.2

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 1,228百万円 (4.0%) 2021年12月期第3四半期 1,181百万円 (86.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	16.48	15.40
2021年12月期第3四半期	27.74	25.57

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第3四半期	10,353	7,816	75.5
2021年12月期	8,395	6,586	78.4

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 7,816百万円 2021年12月期 6,585百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,853	35.1	866	△38.6	1,058	△32.7	769	△40.9	20.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	37,753,000株	2021年12月期	37,733,500株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	106株	2021年12月期	106株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	37,742,509株	2021年12月期3Q	37,305,298株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(会計上の見積りの変更) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(追加情報) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化していた中、感染対策に万全を期した状態を保ちつつ、それ以前の経済活動が再開しています。一方で、ウクライナ情勢の長期化や原材料の供給不足に加えて、グローバルでの金利調整などを背景とした円安進行などもあり、国内外における経済の見通しは依然として不透明な状況が続いています。

こうした経営環境の中、当社グループは、顧客の課題に応じて必要なサービスを提供すべく、「デジタル・クリエイティブスタジオ事業」という単一セグメントの中で、顧客と一緒にデジタルプロダクトを創造していく「クリエイティブ&エンジニアリング」と、デジタルプロダクトの創造に必要な人材を発掘・育成し、顧客に輩出していく「タレントプラットフォーム」という2つのサービスラインを展開し、顧客数及び顧客単価の拡大を重点課題として取り組んでいます。

「クリエイティブ&エンジニアリング」においては、既存顧客からの受注増加と、新規顧客の増加が継続していることにより、当第3四半期連結累計期間におけるストック型顧客数は107社、顧客単価は5,098千円、売上高は6,907,537千円となりました。「タレントプラットフォーム」においては、企業の採用意欲が回復基調にあり、売上高は1,082,783千円となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高7,990,321千円（前年同期比39.6%増）、売上総利益3,731,869千円（前年同期比26.7%増）、営業利益649,826千円（前年同期比42.5%減）、経常利益812,021千円（前年同期比32.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益622,145千円（前年同期比39.9%減）となりました。

なお、当社グループは、デジタル・クリエイティブスタジオ事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載していません。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は10,353,812千円となり、前連結会計年度末に比べ1,958,313千円増加しました。これは主に、資金の借入により現金及び預金が1,355,652千円、「クリエイティブ&エンジニアリング」売上の増加により売掛金が125,192千円、本店の移転により建物及び構築物が163,294千円、投資有価証券の取得により52,283千円増加したことによるものです。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は2,537,340千円となり、前連結会計年度末に比べ727,850千円増加しました。これは主に、短期借入金726,000千円の増加によるものです。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は7,816,472千円となり、前連結会計年度末に比べ1,230,463千円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加622,145千円、為替換算調整勘定587,376千円の増加によるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月10日の「2022年12月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,729,288	7,084,940
受取手形及び売掛金	988,840	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,114,033
仕掛品	101,177	54,309
その他	306,407	459,879
貸倒引当金	△17,513	△22,718
流動資産合計	7,108,200	8,690,444
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	174,962	338,256
減価償却累計額	△132,764	△170,929
建物及び構築物 (純額)	42,197	167,327
工具、器具及び備品	233,501	277,434
減価償却累計額	△173,977	△199,962
工具、器具及び備品 (純額)	59,523	77,472
有形固定資産合計	101,720	244,799
無形固定資産		
のれん	597,035	544,278
その他	2,920	53,430
無形固定資産合計	599,956	597,709
投資その他の資産		
投資有価証券	409,578	461,861
繰延税金資産	33,713	32,317
その他	167,012	388,327
貸倒引当金	△24,682	△61,647
投資その他の資産合計	585,621	820,859
固定資産合計	1,287,298	1,663,368
資産合計	8,395,499	10,353,812
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	229,563	269,844
短期借入金	—	726,000
1年内返済予定の長期借入金	140,732	78,660
未払金	61,019	28,137
未払費用	268,280	240,154
未払法人税等	207,564	31,126
前受金	278,746	—
契約負債	—	127,505
賞与引当金	50,689	331,605
その他	279,886	372,613
流動負債合計	1,516,482	2,205,647
固定負債		
長期借入金	218,622	113,999
資産除去債務	32,637	88,228
繰延税金負債	—	8,121
その他	41,748	121,345
固定負債合計	293,007	331,693
負債合計	1,809,490	2,537,340

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,704,244	1,705,025
資本剰余金	1,689,244	1,690,025
利益剰余金	3,052,192	3,674,338
自己株式	△272	△272
株主資本合計	6,445,409	7,069,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,091	22,473
為替換算調整勘定	137,223	724,599
その他の包括利益累計額合計	140,314	747,073
新株予約権	284	282
純資産合計	6,586,008	7,816,472
負債純資産合計	8,395,499	10,353,812

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
売上高	5,723,571	7,990,321
売上原価	2,779,078	4,258,452
売上総利益	2,944,493	3,731,869
販売費及び一般管理費	1,814,569	3,082,043
営業利益	1,129,923	649,826
営業外収益		
受取利息	55,370	130,120
為替差益	15,664	29,053
助成金収入	1,942	4,870
投資有価証券売却益	5,011	3,120
その他	905	474
営業外収益合計	78,893	167,639
営業外費用		
支払利息	1,103	4,853
株式交付費	460	—
投資有価証券評価損	526	—
その他	0	591
営業外費用合計	2,090	5,444
経常利益	1,206,726	812,021
特別利益		
固定資産売却益	—	69
特別利益合計	—	69
特別損失		
本社移転費用	—	16,908
投資有価証券評価損	—	51,287
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	68,196
税金等調整前四半期純利益	1,206,726	743,894
法人税等	171,864	121,749
四半期純利益	1,034,862	622,145
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,034,862	622,145

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,034,862	622,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,915	19,382
為替換算調整勘定	143,381	587,376
その他の包括利益合計	146,296	606,758
四半期包括利益	1,181,158	1,228,903
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,181,158	1,228,903
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っていますが、当該会計基準の適用による当第3四半期連結累計期間の損益及び期首利益剰余金に与える影響はありません。収益認識会計基準等を適用したことにより、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」として、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示することとしました。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしています。

当該会計基準の適用による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数及び資産除去債務の見積りの変更)

当社は、2022年3月16日開催の取締役会で、本社移転することを決定しました。これにより、第2四半期連結会計期間において、利用見込みのない固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しています。

また、第2四半期連結会計期間において、建物賃貸借契約に伴う原状回復費用として計上していた資産除去債務について、原状回復費用の新たな情報の入手に伴い、より精緻な見積りが可能になったため、見積額の変更をしています。

なお、この見積りの変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微です。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

国内において、依然として収束時期等の予測は困難ではありますが、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴う会計上の見積りの仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、デジタル・クリエイティブスタジオ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。